テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

# FF14　備忘ログ(PATCH2.35)　蛮族ストーリー

## エクストラ編　その2

## 集うは我ら、信頼の絆

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

# 集うは我ら、信頼の絆

ハムジ・ガー ： 強き者よ、我らが一党は至強を求むる！　至強とはすなわち、強きを乗り越えた先にあるもの。
ゆえに無力なる若輩を拐し者は、打倒すべき宿敵なり！
これを完膚なきまでに討ち負かし、拐われし同胞を救出する。それこそが我らに架せられし宿命と心得よ！
志操堅固、剛毅木訥（ごうきぼくとつ）！
再びヒトの地に赴くならば、相応の準備が必須。まずは今一度、ヤドヴ・ガーと相見え、同胞奪回と宿敵打倒の策を練るが肝要。
いずれ機が熟し、我が武を示す時あらば、この戦鬼、ハムジ・ガーも勇み立ちて貴君の元に馳せ参じよう！
気炎万丈、ことにあたるべし！
ヒトは我らと比するに、脆弱矮小なる躯体の持ち主と思うていた。されど戦陣の手錬どもを鎧袖一触に伏すほどの傑物がいたとは。
真、これすなわち浅識、拙陋の極み……至強の道は遥か遠い！

ヤドヴ・ガー ： 冒険者殿、先程は大変お世話になり申した！　聞けばウルダハは獣人排斥を是とする社会の様子。
真、君子危うきに近寄らず、であり申した。
それがしの潜入、拐われし子の奪還に至らねども、千載一遇、「シルビア」殿という協力者を得たり。
彼女より冒険者殿に託を承っており申す。
何か重要な用件がある様子、会って是非とも話をしたいとの由。ウルダハの主門にて、お待ち申しておるとのこと。
早速、伺ってみては如何か？

？？？？ ： おいおいおい、ちょっと待てよっ！　◇◇◇！
ルーン・ガー ： オメェ、せっかく「灰の陣営」に来たってのに、俺に挨拶もしねぇで帰るつもりかっ！？
ちょっと薄情すぎるんじゃねぇか～？　ったくよぉ……！
話は聞いたぜ！　なんだか、すっげぇ強ぇ奴がいるらしいな！　誇り高き戦士として、一度お手合わせ願いてぇもんだ！
オメェ、ウルダハに行くんだろ？　だったら、俺も行くぜ！

ヤドヴ・ガー ： ルーン・ガー！　勝手な行動は慎むべし！　ヒトの世界は伏魔殿、垂堂之戒（すいどうのいましめ）！
未熟なお主には、荷が重い任務であり申す！

ルーン・ガー ： いいじゃねぇかよ～！　カタいこと言うなって、兄弟！　それに俺の心はアマルジャ族だが、ナリは一応、ヒトなんだぜ？
ウルダハに潜入するなら、それこそ適任じゃねぇか！
よっし！　そうと決まれば早速出発だ！　いや～、ヒトの街かぁ……珍しいモノが沢山あんだろうなぁ！
よろしく頼むぜ！　◇◇◇！

ヤドヴ・ガー ： ……跳ねっ返りの未熟者め。我が長、ハムジ・ガーに知れたら怒髪衝天……　後でキツく折檻されても知らぬぞ。
「シルビア」殿は、ウルダハの「ナル大門」前で、お待ちしていると言っており申した。
捲土重来、離合集散……よろしくお願いし申す！
ルーン・ガーめ……喜色満面、またまだ子供であり申す。しかし、あやつは元来、我らとは異なる種族……
故郷の空気を味わわせることも、親心なのかもしれぬ……。

ルーン・ガー ： うっひょー！　ここがウルダハかぁ！　人がいっぺぇいて、なんか高けぇ建物だらけだぜー！

シルビア ： 来てくれてありがとう……◇◇◇。アマルジャ族の使いの女の子も、連れてきてくれるなんて……　心強い……。
アナタからの情報は、私も確認した。「黒死の奏者」……ナザ・ア・ジャーブを雇った黒幕……
これまでの、すべての獣人誘拐事件を仕組んだ張本人……。
「自笑堂」（じしょうどう）……。恐らくその商会の主が、事件の黒幕に間違いない。
ついに……ついに見つけた……！
……◇◇◇、アナタに告白したいことがある。そして、会ってほしい人がいるの。「ザル大門」の近くで待ってる……。

シルビア ： ◇◇◇、待っていたわ。ようこそ、私たちのアジトへ。ここは……

？？？？ ： 「アッシュクラウン商会」の商館！　エオルゼアをまたにかけるクリスタル交易商です！
シャンガ・メシャンガ ： 失礼、冒険者さん！　どうも、初めまして！　僕は「アッシュクラウン商会」の会長、
シャンガ・メシャンガと言います。
「アッシュクラウン商会」は、エオルゼア各地の獣人からクリスタルを購入し、人の社会に流通させる商業組織です。
カッコ良く言えば、獣人と人を取り持つ架け橋となる存在。もっとも、「正義の味方」を気取るつもりはありませんよ。
我々は、あくまで利益を求める商会ですから。
まぁ、最近は蛮神問題やら何やらで、取引の市場はめっきり冷え込み、僕たちもすっかり日蔭者。
おおっぴらな商売が難しいご時世になってしまいましたけどね。
ここは商会のウルダハ支部……ですが、どうかご内密に。獣人排斥法が施行されているウルダハでは、
お上に知れたら大事ですから。

シルビア ： ◇◇◇……。今まで秘密にしていた、私の素性を告白する。私は「アッシュクラウン商会」の一員……。

シャンガ・メシャンガ ： そう、彼女は頼もしい商会の仲間です。そして今回の「獣人連続誘拐事件」の危険な調査任務に、
自ら志願してくれました。
獣人の誘拐事件は、実は以前から断続的に行われていました。我々商会も由々しき問題として、調査をしていたのです。
しかし、奴らの犯行は巧妙、尻尾さえも掴めなかった……。

シルビア ： ……許さない……！　奴らは……私の……大切な仲間を……殺した……。

シャンガ・メシャンガ ： 冒険者さん、貴方は人を含めた、エオルゼアの代表的な6つの種族の縁を取り持ち、
信頼の絆を築いた、我々にとってかけがえのない存在。
どうか我々「アッシュクラウン商会」も、貴方の捜査活動に協力をさせてください！
引き続き、ここにいるシルビアをよろしくおねがいします！

シルビア ： ◇◇◇……今まで黙っていて、ごめんなさい。力を合わせ、卑劣な獣人連続誘拐犯を捕えましょう……！
先程、「クイックサンド」のモモディから、アナタ宛に伝言があったの……。この事件に関して、話があるみたい……。

ルーン・ガー ： 伝言？　よぉし、いってみようぜっ！　◇◇◇！

シルビア ： ……今まで黙っていて、ごめんなさい。商会の存在が知れると、商売ができなくなる。
でも、アナタは信頼できる存在……そう確信した。
どうか私たち「アッシュクラウン商会」と力を合わせ、卑劣な獣人連続誘拐犯を捕えましょう……！

モモディ ： あらあら、いらっしゃい。◇◇◇、待ってたのよ！　……みなさーん、いらしたわよー！

タタラム ： 冒険者さん！　お待ちしてました！

スケートスィス少甲士 ： 黒渦団スケートスィス少甲士、只今参りました！　ともに事件の解決に向け、友軍支援の許可をお願いします！
……な～んてね！

ヴォイス ： ボクも、何か手伝えることがあったらと思いまして……　仮宿の皆さんにお暇をいただき、はりきってやって来ました！
「別にアンタみたいなヘッポコ、　もう帰ってこなくてもいいでふっち？　バイバイでふっち！」
……って、本当にお暇になりかねない感じでしたが……。

ルーン・ガー ： おおっ！　なんか賑やかな感じで楽しそうだなぁー！　こいつら、みんなオメェの仲間かぁ？

タタラム ： 先ほど情報交換をして、状況は把握しています。「獣人連続誘拐事件」の黒幕は「自笑堂」。
しかし、その組織に対する情報がまだ足りない。
そもそも奴らは、なぜ獣人を誘拐したのか？　その目的が……謎に包まれている……。

スケートスィス少甲士 ： アタシたちが追ってた実行犯……　「黒死の奏者」っていう奴も、まだ行方知れずだしね。

ヴォイス ： ここは、ボクたち全員で、手分けして情報を収集するというのはどうでしょう？
これだけ仲間がいれば、きっと手掛かりが見つかりますよ！

タタラム ： では、僕は「ウルダハ・ランディング」で、あらゆる記録を洗い直し、「自笑堂」が保有すると思われる飛空艇の行方を探ります。

スケートスィス少甲士 ： アタシは、過去の獣人誘拐事件の犯罪履歴を洗うわ！　獣人の誘拐は、以前から断続的に行われてたんでしょ？
だったら、関連する事件の報告書が残ってるかもしれない！

ヴォイス ： ボクは「自笑堂」の経営実態を調べてみましょう！　「自笑堂」は表向き、錬金素材の卸し売り業。
錬金術師ギルドをあたったら、何か手掛かりがあるはずです。

ルーン・ガー ： じゃあ、俺は実行犯の「黒死の奏者」っていう奴を探すぜ！　きっと、まだこのウルダハにいるはずだ。
草の根分けてでも探し出してやっから、まってろよぉ！

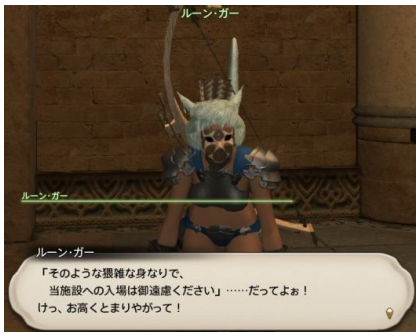
タタラム ： 各自、何か有力な情報があったら、冒険者さんに報告を！　エオルゼアの獣人のために、力を合わせがんばりましょう！

モモディ ： 頼もしい仲間がたくさんいて、とてもうらやましいわ。これもきっと、◇◇◇の人柄のおかげね。
皆で力を合わせ、きっと目的を達成してね！

タタラム ： ああ、冒険者さん、いいところへ！　ウルダハ・ランディングを利用している、
民間飛空艇の入港記録を片っ端から調べてみたのですが……。
申請者リストの中に見つけたんです。「自笑堂」を経営するララフェル族の富豪、「メメリガ」氏の名前をですよ。
どうやらこの半年の間に、かなり頻繁に、エオルゼア各地へと飛び回っているようですね。
恐らく目的は「獣人誘拐」に間違いありません！
ちなみに「メメリガ」という人物ですが……　非合法組織の類いに、武器やら何やらを売りさばく、
「死の商人」だという黒い噂もあるようです。
恐らく「獣人連続誘拐事件」の黒幕は、このメメリガという男に間違いはなさそうですね……！　奴は今、どこに……？
メメリガという男……対立する勢力両方に武器を提供したり、貧民を傭兵にして、奴隷同然に悲惨な戦地に送り込んだり……
まさしく「死の商人」！　かなり卑劣な輩のようです。

ヴォイス ： 冒険者さん、聞いてください！　錬金術師ギルドの帳簿を洗って、「自笑堂」との取引記録を調べたんです！
叩いたら、嫌というほど埃が出てきましたよ！　奴ら、かなり怪しい錬金素材を、しかも大量に購入しています。
「妖異の腐肉」に「怪水仙の球根」、「死霊の臓物」……。
僕は錬金術については専門外ですが……　いずれも取り扱いに、特別な許可がいる品とのことです。
取引資格がある「自笑堂」だからこそ、購入できたようですが。
ちなみに、これらの素材の取引に資格がいるのは、禁忌とされる「死霊術」に転用可能なためだとか……。
「自笑堂」の目的は……「死霊術」がらみ？　死霊を生み出す霊薬を、ひそかに開発してたりして……。
じゃあ、誘拐された獣人たちは……　ま、ま、ま、ま、まさか……実験に……！？　……こ、これは一大事ですよ、冒険者さんっ！
でも、人の「ゾンビー」ならともかく、獣人の死霊だなんて、聞いたことはありません。
も、もしかして……霊薬の改良の目的って……！？

スケートスィス少甲士 ： ◇◇◇さん！　今、不滅隊に依頼し、ここ半年間にウルダハで起きた、　事件の報告書を閲覧させてもらっていたところです。
ふふふ、アタシ、これでも黒渦団特務士官ですから、それなりに顔がきくんですよ？
で、その報告書の内容にひとつ、不審な点が……。
「東ザナラーンで謎の蛮族の大量変死体を発見」……　どうやら半年前、多数のシルフ族の遺体が、
荒野に遺棄されていたのが発見されたらしいんです。
……被害者が人ではなく、獣人だったので事件性は考慮されず、捜査は打ち切りになったようですが……
ザナラーンでシルフ族の遺体……なんだか不自然ですよね？
「シルフ族は外傷はなく、毒殺された模様」……。黒衣森から連れ去られている点を考えると、
誘拐被害者である可能性も否定できないような……。
むむむ、謎は深まるばかり……。とりあえず、ほかの皆が集めている情報を待って、
複合的に推理するしかないようです……以上、報告終わりっ！
ザナラーンでシルフ族の遺体……。やはりシルフ族は何者かに誘拐され、この地で何かの目的のため犠牲になった……許せないっ！




ルーン・ガー ： ◇◇◇！　いいとこに来てくれたっ！　ついに見つけたぜ！　その「ナザ・ナントカ」っつー悪者の滞在先をよ！
どうやら奴は、この「プラチナミラージュ」っていう、カジノホテルのスイートルームにいるらしいぜ！
なんだかキンピカで、趣味の悪りぃとこだよなぁ！
……それでよぉ、もっと詳しく調べるために、中に潜入しようとしたんだけどよ。あの受付のバカ女に止められちまったんだ！
「そのような猥雑な身なりで、　当施設への入場は御遠慮ください」……だってよぉ！
けっ、お高くとまりやがって！
つーか、「猥雑」って何だよっ！　俺の格好のどこが猥雑だってんだよっ！？　これは誇り高きアマルジャ族の戦装束だっての！
オイ、◇◇◇！　なんとか中に入る手立てはねぇかなぁ？　服を着替えるつっても、俺、金もってねーしなぁ……。
……おっ、どうやら情報が出そろったみてぇじゃねぇか！　だったら頼む！　「アッシュクラウン商会」に行って、
シルビアに「プラチナミラージュ」の入り方を聞いてきてくれ！
なぁ、俺のこの格好って、そんなに変か？　……身軽だし、戦いやすくて良いと思うんだけどなぁ。

エシルト ： こちら、カジノホテル「プラチナミラージュ」でございます。すみませんが、会員でない方、身なりの相応しくないお客様には、
入場をお断りさせていただいております。

シルビア ： ◇◇◇、待ってた……。その顔からすると、情報を掴んだのね……？　獣人誘拐事件の真相に近づくための情報を……。
皆が集めてくれた情報を総合しましょう……。黒幕は「自笑堂」を経営する「メメリガ」なる人物……
彼は「死の商人」という裏の顔を持っていた……。
彼の商会は、特別な錬金素材を調達していた……　いずれも「死霊術」に関わる危険な品々……。
一方、ザナラーンではシルフ族の毒殺体が発見され……　各地では、連続して獣人誘拐事件が発生……。
導き出される答えはひとつね……。
彼らは、伝承でのみ語られている、すべての種族を死霊に変える禁忌の霊薬……　「六識の反魂香」を開発しようとしている……！
ヒトはおろか、獣人までをも死霊と化して操れる霊薬……　まさに究極の兵器……！
……それが……奴らの……目的……！
「黒死の奏者」の居場所を突き止めたのでしょう！？　冒険者さん、乗り込みましょう……！
直接、奴の口からメメリガの居場所を聞き出す……！
「プラチナミラージュ」の会員証なら、ウチの会長が持っているから、借りられるはず……。
それと、少しでも戦力がほしい……。ルーンさんには、この「高級なドレス」を着て、同行してもらいましょう……。
私も準備が整ったら、すぐに追って駆けつける……。ナザ・ア・ジャーブ……待ってなさい……！
もう……前のように、不覚はとらない……！！
「プラチナミラージュ」に入るために、ルーンさんを、この「高級なドレス」に着替えさせるの……。
私もすぐに後から駆けつける……。「黒死の奏者」……ナザ・ア・ジャーブ、待ってなさい……！

ルーン・ガー ： よぉ、◇◇◇！　あれから入口を見張ってるんだが、奴が外出した形跡はないぜ。まだ部屋にいるってことだ。
そっちはどうだ？　「プラチナミラージュ」に入る算段はついたか？
……なんだよ、この布っキレは……。
……も、もしかして、これを俺に着ろってのかっ！？　じ、じ、冗談じゃねぇぞっ！？
なんで戦士である俺が、こんな格好しなきゃいけねぇんだっ！　こんなオンナみてぇな服着るぐれぇなら、
裸になったほうが、まだマシだぜっ！！
……。ほ、本当に着なくちゃ……ダメか？
ほ、本当だな……？　本ッ当〜に、これしかホテルの中に入る方法はねぇんだな？　嘘ついてたら、ブッ殺すぞっ！？
あああああっ！　わ〜ったよ！　着りゃいいんだろっ！？　着りゃあっ！！
いいか？　ゼッテー笑うなよ？　ちょっとまってろっ！
ジ、ジロジロみるんじゃねぇよっ！！　これでいいんだろっ！？　これでっ！？　……ホラ、さっさとホテルの中に潜入すんぞっ！
……なんだよ、まだ何かあんのかよ……？
……もしかして……顔か……？
いやいやいやいやいや！！　こいつは、俺がアマルジャ族の戦士である証！
ハムジ・ガーの親父にもらった、大切な仮面なんだぞ！？
あ〜もう、わかったよ！　とるよ、とりゃいいんだろ！？
「至強の戦士が執着するは唯一、強さのみ。　他のあらゆる自尊心を捨てるべし」……親父の言葉だ……。
この「灰の一党」の戦士ルーン・ガー！　至強を目指すためなら、一時の恥ぐれぇかいてやらぁ！
アマルジャ魂、しっかり見とけよっ！
これでいいんだろ……？　……黙れ、何も言うな！
行くぞ！　シルビアもそろそろ来るころだ。ここまで体張ってんだ！　「黒死の奏者」ってヤツをとっちめねぇと気が済まねぇ！

ルーン・ガー ： ふええ……すっげぇなぁ！　まるで宮殿だぜ！

シルビア ： 「黒死の奏者」……！

ナザ・ア・ジャーブ ： 女を呼んだ憶えはないが……。フゥ、なんて悪趣味なサービスだ。下衆の節介ほど、気分を害するものはない。

シルビア ： 観念しなさい！　もうアナタに逃げ場はない……！

ルーン・ガー ： ぐっ……！　つ、強えぇ……！

シルビア ： エオルゼア全土で行われた、一連の獣人誘拐事件……。その実行犯である闇社会の冒険者、ナザ・ア・ジャーブ！
すべてのネタはあがっています！

ナザ・ア・ジャーブ ： フゥ……そんなくだらないことを言うために、お前たちはここに来たのか？　そして、俺の安息を妨げようというのか？

シルビア ： くだらない……ですって！？　罪も力もない獣人を拐って、その命を弄ぶ……。いくら相手が蛮族といえど……。

ナザ・ア・ジャーブ ： 許されない……と言いたいのだろう？　フフ、そんなことは百も承知だ。俺は蛮族を軽蔑していない、むしろ敬愛している。
だが、そんなことはどうでもいいんだ……　人も蛮族も、俺にとっては等しく無価値の存在。
俺はただ狂おしいほどの興奮……「熱狂」を求めたに過ぎない。

ルーン・ガー ： ね、熱狂だと……！？

ナザ・ア・ジャーブ ： フフ、そう……「熱狂」だ。この俺、ナザ・ア・ジャーブが生きる目的。それは決して金や名誉、まして義理や人情でもない。
すべては……「熱狂」……！　耐えられぬ渇望、内に秘めた快楽への衝動……！
甘き死に酔いしれる……これほどの「熱狂」があろうか！？

ルーン・ガー ： けっ……ヘドが出るぜ！　手前勝手な性癖で、他人の命を弄ぶたぁ……、なんつーおぞましい……蛮族はテメェの方だ！

ナザ・ア・ジャーブ ： フッ、美を解せぬとは、罪深いお嬢ちゃんだ。キツくしつけが必要だな……。
そして愛でてやろう、物言わぬ美しい屍にして……。

シルビア ： この事件の黒幕は……「自笑堂」の「メメリガ」！　その正体は、意のままに操れる死霊を生み出し、
不死の軍勢を作ろうとしている死の商人。
しかし、人を死霊化すれば、反発されることは明白！　それに奴隷や貧民を誘拐するのにも限度がある……。
そこでメメリガは、「蛮族」の存在に目を付けた。
人に仇なす蛮族を操り、不死の兵として戦地に送りこむ。そして、自らは手を汚さず大金を得る……まさに一石三鳥。
なんて卑劣な発想……！

ナザ・ア・ジャーブ ： フフ、見事な推理だ、感服したぞ。お前はいったい……？

シルビア ： ……許さない……で……ふっち……。お前たちは……わたぴの大切な仲間たちを……殺した……！
忘れたとは言わさないでふっち！

ルーン・ガー ： オ、オメェ、シルフ族だったのか！

シルビア ： ナザ・ア・ジャーブ！　さぁ、白状するでふっち！　メメリガは、どこにいるでふっち！？

ナザ・ア・ジャーブ ： フフ、黙秘させてもらうぞ。俺は、これでも冒険者……相応の報酬を受け取っている。
たとえ下衆な輩だろうと、依頼人は裏切れないのでね。

タタラム ： ……では、あなたを雇い直しましょう。
メメリガは、あなたに幾らの報酬を払いました？　僕が今、ここでその倍……いや3倍のギルを払います。
支払は現金？　それとも宝石や手形がいいですか？
ご安心を、ハッタリなんかじゃないですよ。僕はこう見えて、あの「ハイウィンド飛空社」の御曹司。
お金なら、ウンザリするほど持ってますから。

ナザ・ア・ジャーブ ： フフフ……フハハハハハハハハ！　面白い！　そう、これこそが「熱狂」だ！　気に入ったぞ、お前たち！
メメリガは、東ザナラーン「見えざる都」にいる。今ごろは、誘拐した蛮族を実験台に、
試作した「六識の反魂香」の実験を始めているだろう。

ヴォイス ： な、なんだってっ！？

ナザ・ア・ジャーブ ： フフフ、俺が言えるのはそこまでだ。……もし、メメリガの実験を阻止するつもりなら、
俺も諸君らと剣を交えなくてはならないが、よろしいかな？

スケートスィス少甲士 ： 望むところよっ！　憶えておきなさいっ！

ナザ・ア・ジャーブ ： フフフ、小気味良い答えだ。せいぜい俺を楽しませてくれ。めくるめく熱狂の饗宴を……期待しているぞ……！

タタラム ： ……いきましょう、皆さん。

シルビア ： ……◇◇◇、皆さん、今まで黙っていてすみません……。先程お見せしたとおり、私の正体はシルフ族……でふっち。
わたぴの本当の名前は「シルベシオ」。この姿は、ヒトの社会に溶け込むための擬態。
シルフ族お得意の「変化のおまぢない」でふっち。
わたぴは元々「シルフの仮宿」に棲んでいたのでふっち。でも、よりヒトとの交流を深めようと、
仲間とともに仮宿を離れ、ヒトの社会へとやってきたのでふっち。
でも……半年前……悲劇がおきたのでふっち。正体がバレたわたぴらは、獣人誘拐犯に狙われ、そして拉致されたのでふっち。

スケートスィス少甲士 ： そして、「六識の反魂香」の被験体にされた……。……そっか、ザナラーンの荒野に遺棄されていたシルフ族は、
アナタの仲間だったのね……。

シルビア ： わたぴはただひとり、誘拐犯の魔の手から逃れたのでふっち。命からがら荒野をさまよっていたところを助けてくれたのが、
「アッシュクラウン商会」のシャンガ・メシャンガ会長。
それ以来、わたぴは「変化のおまぢない」で正体を隠し、仲間のカタキをとるために、
憎き獣人誘拐犯の足取りを追っていたのでふっち……。

タタラム ： 獣人を使った実験なんて……なんて卑劣な！　冒険者さん、シルビア……もとい、シルベシオさんと、
実験場である「見えざる都」に急行してください！

ルーン・ガー ： ……でもよぉ。「見えざる都」って、確か何もねぇ遺跡だぜ。
なんで奴ら、そんなとこをわざわざ実験場にしやがったんだ？

ヴォイス ： 何もない遺跡だからこそ、もってこいなのでしょう。「六識の反魂香」の成分を吸い込まないように調合するには、
開けた屋外でなければなりませんし……。
それに、実験をするにも好都合です。遺跡なら人目にもつかず、もし死霊化した獣人が暴走しても、
始末、逃亡できる……つくづく卑劣な奴らです！

タタラム ： 冒険者さん、僕たちは各々の獣人の拠点に帰り、それぞれの長に、この緊急事態を報告してきます。
そして必ず、あなたたちを助けに駆けつけます！
……それとこれを。これは「メラメラ燐粉ボム」という秘密兵器です。
仮宿のシルフ族が作った「ゲホゲホ燐粉爆弾」と、アコライト789 バ・ゴさん特製の「ボム」を、
「エカトル空力団」の技術を借りて、融合させたものです。
いわば、僕たちの絆の結晶！　皆の力を結集したこの秘密兵器で、悪を吹き飛ばしてやりましょう！　では、お願いします！

シルベシオ ： ◇◇◇、待ってた……。ここでは人目を気にして姿を変える必要はないから……。魔力の温存のため、元の姿……でふっち！
それより、見えるでふっち……？　メメリガの部下たちは、大金で雇われた一流の傭兵。
かなりの死闘になる……戦闘の準備はいい……でふっち？

**いつでもこいでふっち！**

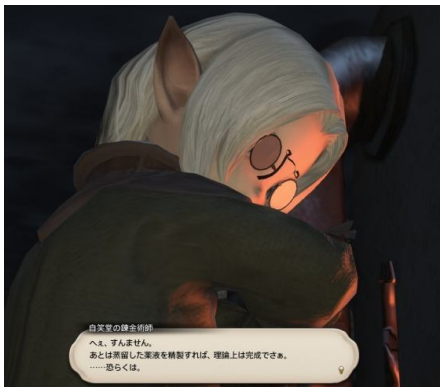
頼もしい……でふっち！　まずは、敵の隙をうかがうでふっち！

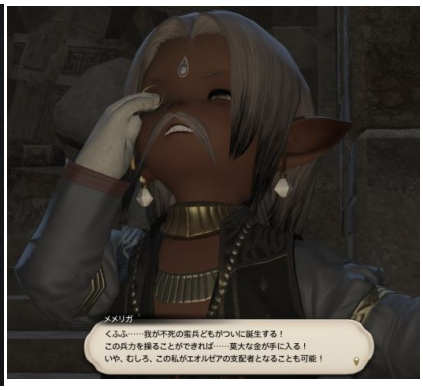
**ちょっと待ってでふっち！**

メメリガ ： まだか？　まだできんのか！？　ええい、ウスノロめっ！

自笑堂の錬金術師 ： へぇ、すんません。あとは蒸留した薬液を精製すれば、理論上は完成でさぁ。……恐らくは。

メメリガ ： 恐らくは……だと？　ふざけるなっ！　この新薬開発に、いくら払ってると思ってるんだっ！
さっさと誘拐してきた蛮族どもに使うのだっ！
くふふ……我が不死の蛮兵どもがついに誕生する！　この兵力を操ることができれば……莫大な金が手に入る！
いや、むしろ、この私がエオルゼアの支配者となることも可能！



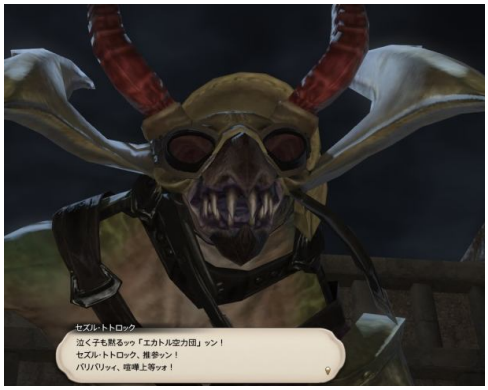


熟練の用心棒 ： てめぇ！　何者だッ！？

シルベシオ ： メメリガ！　仲間たちを返すでふっち！

メメリガ ： ……貴様、知ってるぞ。何やらコソコソと私たちのことを嗅ぎまわっていたらしいな。
だが遅かったな、腐れ野菜め！　「六識の反魂香」はすでに完成目前！　もはや、私の野望は誰も止めることはできん！
おっと、殺すなよ！　生け捕りにしろ！　蛮族ともども、貴様にも反魂香の香りを楽しませてやろう。
そして、永遠に死ぬことのない奴隷となるのだ！

屈強な用心棒 ： むッ！？



？？？？　：　大逆無道、悪事千里……。天網恢恢、疎にして漏らさず。西に悪あらばこれを断ち、東に魔あらばこれを滅す……。

メメリガ　：　何者だッ！？

ハムジ・ガー　：　我は「灰の一党」が筆頭……。炎獄の灼風に舞いし一握の灰塵。戦鬼、ハムジ・ガーと覚えておいていただこう！

ノォヴ　：　同じく、サハギン族の戦士であり父、ノォヴ！　西ラノシアよりまかり来た！　フスィーッ！！

セズル・トトロック　：　泣く子も黙るッゥ「エカトル空力団」ッン！　セズル・トトロック、推参ッン！　バリバリッィ、喧嘩上等ッォ！

フリクシオ　：　ご存知「シルフの仮宿」の長ちゃまこと、フリクシオでぶっち！　冒険者どの、お待たせでぶっち！

ピックマン789 ギ・グ　：　そしーて……ついナリユキで　来ちゃったけーど　ボクは　特に何もするつもりーはなーい
「第789洞穴団」の　ピックマン789 ギ・グ！
え　えーと……コレかーな？　……えーい！

全員　：　「六族連盟」、只今、参上！！

ピックマン789 ギ・グ　：　あわわわーわ……　ちょっと火力が強すぎたーよ……　バ・ゴのヤーツ　頼んだボムを間違えたーよ！

フリクシオ ： メメリガとやら、観念するでぶっち！　仲間たちを返してもらうでぶっち！

メメリガ ： ええい！　邪魔をするつもりか、おぞましい蛮族どもめっ！

セズル・トトロック ： ……むッゥ！？

ナザ・ア・ジャーブ ： フフフ……素晴らしい……　素晴らしい熱狂の舞台だ！

ノォヴ ： フスィーッ……今度こそ、不覚はとらん。勝負だ、ヒトの戦士よ……！

メメリガ ： フヒヒヒッ、「黒死の奏者」……ナザ・ア・ジャーブよ！　蛮族どもを殺せ！　払った大金分の仕事をするのだっ！

ナザ・ア・ジャーブ ： フフ……このナザ・ア・ジャーブ、下衆の囀りなど聞く耳はもたぬ。しかし、ここはあえて従おう。
命を削り、しのぎ合う……その末に攫み獲る血塗れの勝利！　フハハ、これ以上の「熱狂」が、どこにあろう！
……さぁ、俺を楽しませてみろ！

シルベシオ ： わたぴは捕まった仲間を助けるでふっち！　◇◇◇！　アナタはその爆弾で、錬金釜を破壊するでふっち！

メメリガ ： フヒヒヒヒヒヒヒヒヒ！！　「六識の反魂香」は、蛮族をゾンビーに変える！
最強不死兵団で、私は億万長者！　いや、帝王となるのだぁ！

シルベシオ ： 捕まった仲間は、わたぴに任せて……！　アナタはその爆弾で、錬金釜を破壊するでふっち！

メメリガ ： うぎゃあああああああああああっ！！　ぜ、全財産をつぎこんだ錬金釜があああああっ！
けっ、研究費用っ！　ご、5億6000万ギルっ！！　ごおくろくせんまんぎるうううううううっ！！

ナザ・ア・ジャーブ ： フハハハ……！　いいぞ！　そうだ！　この熱さだっ！　この熱狂こそが……我が魂を震わせる最高の瞬間！
そして舞台は、諸君らの死をもってついに完成される！
さぁ、俺に聞かせてくれ！　甘美なる死の五重奏を！　絶望の嘶きを、その醜い喉から絞り出せっ！

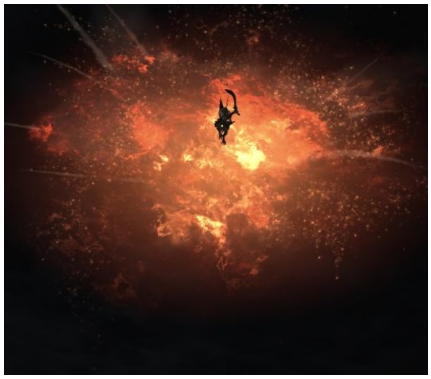
ノォヴ ： フスィーッ、図に乗るな……若造！　我らがチカラ、思い知るがいい！

ハムジ・ガー ： 死中求活！　我、これより死地に入る！

ナザ・ア・ジャーブ ： ……甘いなっ！
魔法障壁だとッ！？

セズル・トトロック ： 今だッァ！　ノォヴの大将ッォ！　オレ様特製の得物を使いやがれッェ！！

ピックマン789 ギ・グ ： あわーわ　い　今だーよ！



ナザ・ア・ジャーブ ： 貴様ら……っ……よ、よくも……　この「黒死の奏者」……ナザ・ア・ジャーブをっ！　この借りは必ず……必ず返すぞっ……！！

メメリガ ： き、貴様っ……そ、それは、私の脱出用飛空艇っ！　おのれ！　う、裏切ったな！

ナザ・ア・ジャーブ ： ふはははは、礼を言うぞ、蛮族ども！　この俺に、復讐という新たな目標をあたえてくれたことを！
いずれまた会おう！　さらなる「熱狂」の中でなっ！

ピックマン789 ギ・グ ： あーれ　ボムちゃんが　もういっこ残ってたーよ？　ナンダコーレ？　ま　いーか　……えーい！

シルベシオ ： メメリガ、観念するでふっち。お前の悪事は、アッシュクラウン商会を通じて、ウルダハ政庁に報告済みでふっち。
もう、いくら賄賂を積もうと、お前の罪は揉み消せないでふっち。神妙にお縄につくでふっち！

メメリガ ： う……ううううう……。私の……金……私の……計画……　ううううううう……！

シルベシオ ： ◇◇◇……！　ついに……ついに、やったでふっち……。メメリガの計画を……奴の野望を阻止したでふっち！
ううう……やっと……仲間の仇を……討てたでふっち……。ノメシオ……フラクシオ……見てるでふっち？
わたぴは……ついに……やったでふっち……！

フリクシオ ： 見事でぶっち。よくがんばったでぶっち、シルベシオ！

シルベシオ ： 長ちゃま……。わたぴを憶えて……くれていたでふっち……？

フリクシオ ： もちろんでぶっち。お前さんたちが仮宿を旅立ったときのことを、昨日のように思い出すでぶっち。
シルベシオ、お前さんは本当に強い子でぶっち。仲間を殺され、たったひとり、孤独に戦っていたんでぶっち？
……よくがんばったでぶっち。
ワチシも、もっと早く手助けができれば……　ノメシオも、フラクシオも助けてあげられたのでぶっち。
本当にすまなかったでぶっち。

シルベシオ ： 長ちゃま……！　もったいないお言葉でふっち。

フリクシオ ： 拐われた者たちは、各々の長が責任をもって連れ帰るでぶっち。これにて、一件落着でぶっち！
冒険者どの、すべては、お前さんのおかげ。お前さんへの信頼の絆が、ワチシらをこの地に呼び寄せたでぶっち。
我ら「六族連盟」、いついかなるときも種族の垣根を越え、ともに協力し、あらゆる危機に立ち向かう……！
その絆を、決して忘れないでほしいでぶっち！

シルベシオ ： 冒険者さん……　「アッシュクラウン商会」でお待ちしているでふっち。改めて……お礼を言わせてほしいでふっち！

シルビア ： ◇◇◇、待ってた……。私です、シルベシオ……いえ、今は「シルビア」……。
……仲間とともに「シルフの仮宿」を去り、このヒトの社会へとやってきたとき、私は高い理想と希望に満ちていた……。
ヒトと獣人はわかり合える。様々な問題はあれど、ともに手を取り合い、このエオルゼアで平和に共存していける……と。
しかし、仲間がメメリガに拐われ、そして殺されたとき、希望はいつしか失望へと変わり、そして絶望となった……。
……どんなにヒトを恨んだか。
でも、アナタと知り合い、私は再び希望を取り戻した……。6つの種族が信頼の絆で結ばれ、力を合わせ生きていく……。
その可能性を、冒険者さんは私に示してくれた……。
私は、アナタからもらった、その理想と希望の火を消すことなく、受け継いでいく……。
「アッシュクラウン商会」の仲間たちと……。
さようなら、◇◇◇。そして……ありがとうでふっち。本当に……本当に……。